

「稲」令和三年七月号 通巻五号（隔月刊）

主宰 山田真砂年 発行所 逗子市桜山

創刊 令和二年九月、山田真砂年が神奈川で創立、

令和二年十一月初刊

師系 中村草田男・鍵和田柚子

「俳句は詩です。詩は心のゆらぎ、きらめきです。大きなゆらぎ、小さなゆらぎ、ほんの微かなゆらぎも詩です。さまざまな心のゆらぎを十七音で表現したものが俳句です。気取らず、背伸びすることなく、今の己の身の丈にあった言葉で表現しましょう。」

（稲俳句会ホームページより）

主宰作品「生ぬるき」より

長閑けしや草食みながら尿の馬 山田真砂年

川端のさくら舞ひ込むオムライス

花筏濁れる水を出てゆけり

著我の花紫立ちし蔭の中

生ぬるき夜なり始すすりをり

主宰による「今月の推薦句」（三十一句）より

「垂穂集」より

弾き終へて少年の笑み難祭

髪切つて大きな影の初つばめ

「瑞穂集」より

人柱めくや落花の渦にゐて

大坪 正美

春雷や客の残せしカステイラ 小見戸 実
 春の雷貼り紙剝がしゆくやうに 沼田 布美
 紫木蓮あとは剝がれてゆくばかり 中村かりん
 「稲穂集」より
 陽炎の中を飛び出すアドバルーン 上田 信隆
 月影てふ緑帯びたる白き梅 滝代 文平
 行く春の人影に開く自動ドア 久保千恵子
 古稀の師の傘寿の弟子や初桜 高田 峰
 主宰による「稲の香（選評）」があります。今月の
 主宰推薦句三十一句全句についての鑑賞評です。
 槍田良枝氏による評論「三橋鷹女の世界（二）」が
 あります。今月は「俳句への出発」と題し、原石鼎の
 鹿火屋への入会とその後の活躍を叙した力作です。
 続いて高原貞夫氏によるエッセイ「小津安二郎の俳
 句」も興味深く読ませて頂きました。
 大坪正美氏選による「課題句「辛夷」」があり、鑑
 賞評が続きます。秀逸句十句、入選句十七句の中から、
 秀逸句一句をご紹介します。
 君逝きし谷川岳や花辛夷 相馬ゆう子
 令和二年十一月初刊から今七月号で通巻五号です。
 充実の句群、鑑賞評群に加え、力作の評論、エッセイ
 が続く読み応えのある誌面です